

第68回 全日本少年野球大会 大阪大会

日時：平成29年8月28日(月)～30日(水)

会場：万博記念公園(A球場)

豊中ローズ球場(B球場)

菟谷運動公園野球場(C球場)

関西電力総合運動公園野球場(D球場)



開催都市 大阪市

目 次

1	大会開催要綱	1
2	大会役員・実行委員名簿	4
3	全日本少年野球連盟規約	5
4	大会試合規定	7
5	監督・主将会議次第	11
6	組合せ抽選会次第	12
7	開会式次第	13
8	閉会式次第	14
9	出場チーム一覧	15
10	優勝チーム一覧	16
11	得点表	17
12	組合せ表	19
13	会場案内図	20

第 68 回全日本少年野球大会開催要綱

1 目的

児童自立支援施設入所児童が、野球を通じて困難に打ち勝つ強い精神と協力心を養うとともに、健全明朗な心身を育成し、もって児童福祉の増進を図ることを目的とする。

2 大会名称

第 68 回全日本少年野球大会

3 主催

厚生労働省 大阪市 全日本少年野球連盟 全国児童自立支援施設協議会

4 共催

近畿地区児童自立支援施設協議会

5 後援（順不同）

大阪市会 大阪市教育委員会 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 社会福祉法人NHK厚生文化事業団
株式会社日刊スポーツ新聞社 高槻市 豊中市 吹田市 関西テレビ放送株式会社
朝日新聞社 サンテレビジョン NHK 大阪放送局 41会スマイルチルドレン
全国児童自立支援施設協議会転退職者交友会 MBS 朝日放送株式会社 毎日新聞社

6 協賛（順不同）

一般社団法人日本野球機構 京セラドキュメントソリューションズ株式会社
株式会社明治 内外ゴム株式会社 株式会社中央スポーツ 高槻スポーツ
株式会社モビメント関西

7 協力

大阪市中学校体育連盟 大阪市児童福祉施設連盟 追手門学院大学 興國高等学校

8 開催期間

平成 29 年 8 月 28 日（月）から 8 月 30 日（水）まで

※28 日(月)は監督・主将会議及び、組み合わせ抽選会のみ行う。

9 開催場所

(1) 監督・主将会議及び組合せ抽選会

伏尾温泉 不死王閣 大阪府池田市伏尾町 128-1

(2) 大会会場

A 万博記念公園野球場（万博）

〒565-0826 吹田市千里万博公園 1-1 TEL. 06-6877-3797

B 豊中市豊島公園野球場（ローズ）

〒561-0804 豊中市曾根南町 1-4-2 TEL. 06-6862-0018

C 萩谷総合公園野球場（萩谷）

〒569-1054 高槻市大字萩谷 111-1 TEL. 072-699-0700

D 関西電力総合運動公園野球場（関電）

〒562-0024 箕面市粟生新家 4 丁目 4-1 TEL. 072-729-3180

10 大会日程

8月28日（月）組合せ抽選会

受付	13:00～	
監督・主将会議	15:00～15:50	
組合せ抽選会	16:00～16:50	
前夜祭	17:00～18:00	

8月29日（火）大会初日

開会式	9:00～	A 野球場
試合開始	10:30～	A 野球場(3 試合)
試合開始	11:00～	B 野球場(3 試合)
試合開始	11:30～	C 野球場(3 試合)
試合開始	11:00～	D 野球場(2 試合)

8月30日（水）大会二日目

準決勝	9:00～	A 野球場
準決勝	9:00～	B 野球場
決勝	12:00～	A 野球場
閉会式	14:00～	A 野球場

11 大会役員

大会名誉会長	厚生労働大臣
大会会長	大阪市長
大会副会長	厚生労働省子ども家庭局長 大阪府子ども青少年局長 全日本少年野球連盟理事長 全国児童自立支援施設協議会長

12 大会実行委員会

- (1) 本大会の計画、準備、運営に関する一切の事項を処理するため、本大会実行委員会を設け、委員長他の委員を置く。
- (2) 大会実行委員会に関する規定は、別に定める。

13 大会運営

- (1) 本大会の運営は、要綱に定めるものの他「全日本少年野球連盟規約」の定めるところによる。
- (2) 本要綱によりがたいものについては、8月28日（月）開催の監督・主将会議に諮り決定する。
- (3) 本大会運営上、緊急に決定を要する事項については、大会実行委員長の責任において処理する。

14 参加チーム (15 チーム)

前回優勝チーム	1 チーム	近畿地区	2 チーム
東北・北海道地区	2 チーム	中国地区	1 チーム
関東地区	2 チーム	四国地区	1 チーム
東海地区	2 チーム	九州地区	2 チーム
北越地区	1 チーム	開催地（大阪市）	1 チーム

- 15 大会出場資格
児童自立支援施設の入所児童であって、あらかじめ主催者あてに登録された選手に限る。
- 16 チーム編成
1チームにつき選手15名以内、監督、施設長、連絡員（職員）、記録員各1名の計19名以内とする。
- 17 試合規定
別紙のとおり
- 18 表彰式
チーム賞として、優勝、準優勝、3位（2チーム）を表彰する。
- 19 負担金
参加チームは、負担金として15,000円を納入する。
- 20 宿舎
不死王閣
〒563-8585 大阪府池田市伏尾町128-1
TEL 072-751-3540
- 21 宿泊費等
(1) 旅費及び宿泊費（1人1泊2食付9,720円）及び昼食弁当代（880円お茶付き）については、参加チームで負担する。なお、部屋の割り当ては主催者において決定する。
(2) 大会期間中の移動手段は主催者で準備するが、原則相乗とし各チーム19名以内の利用とする。利用区間は、JR新大阪駅又は、伊丹空港から宿舎までの往復と宿舎から大会会場までの往復とする。
(3) その他、大会運営に係る経費は主催者が負担する。
(4) 28日（月）及び29日（火）の両日は試合の勝敗にかかわらず宿泊するものとする。
- 22 参加申込み
(1) 出場資格を得た児童自立支援施設の施設長は、7月28日（金）までに所定の申込書により大会事務局に申し込むものとする。
(2) 参加に伴う連絡、案内等の詳細については、別途大会事務局から通知する。
- 23 大会事務局
大阪市立阿武山学園（担当：安食 義臣）
〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原956
TEL 072-696-0331 FAX 072-696-0332
y-ajiki@city.osaka.lg.jp

附 則

この要綱は、平成29年4月26日から施行する。

第 68 回 全日本少年野球大会 役員名簿

役 員	役 職	氏 名
大会名誉会長	厚生労働大臣	加藤 勝信
大会会長	大阪市長	吉村 洋文
大会副会長	厚生労働省子ども家庭局長	吉田 学
	大阪市こども青少年局 局長	内本 美奈子
	全日本少年野球連盟理事長	青木 建
	全国児童自立支援施設協議会長	林 功三

第 68 回 全日本少年野球大会 実行委員名簿

委 員	役 職	氏 名
委員長	大阪市こども青少年局子育て支援部長	高井 俊一
副委員長	厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長	成松 英範
	大阪市立阿武山学園 副園長	東田 明久
委 員	大阪市こども青少年局子育て支援部こども家庭課長	迫野 京子
	大阪市こども青少年局こども相談センター相談支援担当課長	音田 晃一
	大阪市こども青少年局南部こども相談センター相談支援担当課長	瑞慶覧 薫
	近畿児童自立支援施設協議会 会長	舟積 常明
	近畿児童自立支援施設協議会 副会長	廣岡 幸夫
監 事	大阪市児童福祉施設連盟会長	中田 浩
	弁護士	石田 文三

事 務 局	役 職	氏 名
事 務 局	大阪市立阿武山学園 副園長	東田 明久
	大阪市立阿武山学園 担当係長	芳野 昇
	大阪市立阿武山学園 担当係長	安食 義臣

全日本少年野球連盟規約

第1条 この連盟は、全日本少年野球連盟と称する。

第2条 この連盟の事務所は国立武蔵野学院内に置く。

第3条 この連盟は、野球を通じて明朗闊達な社会人を育成し、児童の福祉推進を図ることを目的とする。

第4条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 野球大会の開催
- 2 その他の野球に関する斡旋

第5条 この連盟に加盟する施設は、加盟金500円を添え、施設長名を以て文書申込みをなし、役員会の承認を経なければならない。

第6条 この連盟を脱退する場合は、理由を具して届出て役員会の承認を経なければならない。脱退施設には、加盟金は返さない。

第7条 この加盟員は、連盟費として、年5,000円を納めるものとする。

第8条 この連盟に次の役員を置く。

- 1 理事長 1名
- 2 理事 加盟施設長
- 3 委員 加盟施設の野球指導職員1名（理事の推薦による）
- 4 評議員 役員会の推薦による者若干名

第9条 この連盟に役員会の推薦による顧問若干名を置く。

第10条 役員会は、理事長がこれを招集する。

第11条 この連盟は、役員会によって運営する。

第12条 野球大会は、下記により年一回各地においてこれを挙げる。

- 1 出場チームは各地域において予選を通過したものとし、地区別大会出場チーム数は、原則として、5施設以下に対して1チーム、6以上10施設以下に対して2チーム、

- 1 1以上15施設未満に対して3チームとする。
- 2 出場選手の資格は、児童自立支援施設入所者とし年齢に制限を加えない。
- 3 ルールと試合球に関しては、原則として、中等学校軟式野球大会に準拠する。
- 4 試合方法その他大会運営に関しては、必要に応じ大会委員長が細則を制定する。

第13条 大会举行の場合、役員会の推薦により、次の委員を置き、一切の運営に当たる。

- 1 大会委員長 1名
- 2 大会副委員長 2名
- 3 大会委員 若干名

第14条 大会1位優勝チームには、優勝旗・優勝杯を授与する。その優勝旗・優勝杯は、次の大会までその施設が保持する。

第15条 この連盟の費用は、寄付金・加盟金・連盟費によって支弁する。

第16条 この連盟規約の改正は、役員会の決議によらなければならない。

第17条 この連盟には、次の帳簿を備えなければならない。

- 1 加盟者名簿並びに役員名簿
- 2 会計簿
- 3 連盟記録

第68回全日本少年野球大会 試合規定

- 1 試合形式はトーナメント方式とする。
- 2 試合ルールは、原則として「2017公認野球規則」及び「(公財)全日本軟式野球連盟競技必携2017」を適用する。
- 3 試合は、7回戦とする。ただし、3回終了時以降において10点以上、5回終了時以降において7点以上の得点差がある場合は、コールドゲームとする。
なお、決勝戦においてはこれを適用しない。
- 4 7回を終えて同点の場合は特別延長戦を行う。ただし、決勝戦については9回まで延長し、それでも同点の場合に特別延長戦によって勝者を決する。

※特別延長戦

最終回のメンバーにより無死満塁からプレーを始める。この場合、打者は前回最終打者の次者とし、走者はその前3人とする。なお、代打及び代走も可能とする。1回(イニング)で勝者が決まらない場合は、さらに継続打順でこれをもう1回(イニング)行う。それでも勝者が決定しない場合は、当該回(イニング)のメンバー9人の抽選により決定する。

抽選は、両チームメンバー9人が投手から順に試合開始挨拶の状態に整列し、先攻チームから大会実行委員が準備した封筒により交互に抽選を行う。審判員2名及び両チーム監督の立ち会いのもと開封し、○印の多いチームを勝者とする。

- 5 試合中に悪天候又は日没等により審判が試合続行を不可能と判断した場合は、コールドゲームを適用する。ただし、5回終了まで試合が進行していない場合、または、5回終了時以降において同点の場合は、当該回(イニング)のメンバー9人の抽選により勝者を決定する。抽選の方法は、第4項と同様に行う。
- 6 試合の組合せは、8月28日(月)に行う組合せ抽選会において決定する。
なお、事前の監督・主将会議において予備抽選を行い、同一地区のチームについては、ゾーン(パート)を分け抽選を行う。抽選の順序は、当該地区予選大会の上位チームから行う。この場合、前回優勝チームも地区予選大会での順位を優先する。なお、開催地チームは大会開会式準備等の関係から開会式会場第1試合にあてることとし抽選は行わない。
- 7 ベンチ入りする者は、選手15名、監督1名、施設長及び連絡員(職員)及び記録員各1名の合計19名とする。
監督はチームと同一のユニフォームを着用し、連絡員及び記録員の服装は白色のシャツに紺、黒、グレー系のスラックス、あるいはチームと同一のユニフォームを着用する。
なお、いずれもチームと同一の帽子を着用する。
- 8 ランナーコーチは、選手に限るものとし、ヘルメットを着用する。

- 9 ベンチは、組合せ抽選番号の若いチームを一塁側とする。ただし、続けて試合に臨む場合にはベンチの移動は行わない。
- 10 試合の先攻または後攻は、主将によるメンバー表交換時にトス（ジャンケン）により決定する。
第1試合は試合開始予定時刻の30分前、第2試合以降は前試合の4回終了後に事務局の指示する場所に集合し、各試合ごとのメンバー表4部を事務局に提出する。前試合がコールドゲームの場合は、放送で指示する。また、次の試合チームのブルペン使用は、4回終了時から可能とする。
- 11 シートノックは、各チームの最初の試合時のみ7分以内で行い、後攻チームから始める。ノッカーは同一のユニフォームを着用している者に限る。ただし、大会進行上都合により行えない場合もある。その場合は、事前に各チームへ伝達する。
- 12 審判は、大阪府中学校体育連盟に委託する。
- 13 ゲームの進行は、審判の合図にて行う。
なお、特別のグラウンドルールは、試合前に審判が指示する。
- 14 試合中の審判に対する抗議は、一切認めない。ただし、審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがある時には、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正されるように要請することができる。
なお、試合成立後の要請については、試合の結果を変更するものではない。
- 15 試合に使用するボールは、全日本軟式野球連盟（J S B B）公認のB号ボールとする。
- 16 バットは、金属製バットの使用は認めるが、全日本軟式野球連盟（J S B B）マークを付けた公認のものに限る。
また、複合バット、マスコットバット、鉄棒、リング等の使用は禁止とするとともに、ベンチに持ち込まないものとする。
- 17 シューズは、ポイントスパイクを使用し、金属スパイクの使用は禁止とする。
- 18 打者及び走者は、全日本軟式野球連盟（J S B B）マークを付けた公認のヘルメットを必ず着用する。
なお、次打者も同様とし、ウェイティングサークル内で低い姿勢で待つ。
- 19 キャッチャーは、必ずスロートガード付きマスク、ヘルメット、プロテクター、レガース、（全日本軟式野球連盟〔J S B B〕マークを付けた公認のもの）および急所用カップを着用する。
- 20 悪天候等により、試合規定の一部を変更する場合がある。

2 1 以下のケースにおいて、監督が指揮する 8 人及び 7 人までのチーム編成を承認する。

- ① 全在籍児童数が 9 人に満たない施設
- ② 大会前までは 9 人以上で活動していたが、大会直前に児童が問題行動を起こし野球部の活動に参加させられず、他者の補充もできないという施設。
- ③ 野球部員は 9 人いて参加登録も終了しているが、当日(もしくは直近に)負傷や疾病、トラブル等で試合に出られない状況が発生し、他者の補充もできないという施設。
- ④ 在籍児童は 9 人以上いても、野球部員が 9 人に満たないという施設
(本来、野球は 9 名ですべきもので、部員が 9 名になるように努力してきた前提の上で)

※なお、7 人未満のチームの正式参加は認めない。

2 2 「2 1」のケースは救済措置であり、そのために当該施設の施設長は大会前に全日本少年野球連盟理事長と確認書を取り交わす。戦力外選手をベンチに入れずに(つまり選手がいるのにあえて出さないかたちで) 9 名に満たないチームで試合参加をすることは認められない。

※地区大会においても、地区協議会会長もしくは地区大会委員長(野球大会担当施設長)どちらかへの確認書提出は行うべきである(地区大会において規定していただきたい)。

2 3 前年度優勝チームと地元開催チームにおいて、9 名に満たない場合の取り扱いは以下の通りとする。

- ① 7～8 名の部員がいる場合「2 1」に従って、チーム編成を行い、正式参加とする。(ただし、6 名以下は不可)
- ② 職員を加えて、9 名にしてオープン参加とする。オープン参加規定は以下の通りとする。

※オープン参加規定について

職員を加えて、9 名として参加する。参加職員は、投手は不可とする。
なお、コールドゲーム規定も適応する。オープン参加は試合結果には関係なく敗者とする。

2 4 「2 1」のケースにおいて、部員が 8 人の時は、8 番まで、7 人の部員の時は 7 番までの選手をメンバー表に記入する。8 人の部員の時は 8 番の打者の後、1 番打者に戻る。7 人の部員のケースでは 7 番の打者の後、1 番に戻る。欠けた打者へのペナルティーは行わない。

2 5 「2 1」のケースが発生した場合、メンバー表にはポジションを入れて提出するが、いないポジションは記入の必要はない。その際に、内野のセカンドを空いたポジションとした時、ショートがセカンド方面に移動して守ることは、ポジション交替の申告はいらぬが、ショートとサードが、申告なしに入れ替わるなどはできない。

26 「21」のケースが発生した場合の「臨時代走」について

打者が死球を受けた時や走塁中に負傷した時など、選手の治療が必要な時に、この治療時間が長時間に及び試合の中断が長引く可能性があるとして審判員が判断した場合、審判員は相手チームに事情を説明し、試合に出場している選手から臨時に代走を出すことを許可できる。「臨時代走」は、打撃の完了した直後の者とする(但し、その者は投手、捕手を除いた者)。このようなときに、7人チームのランナーコーチがいなくなることが起きる場合は認める。

27 「21」のケースが発生した場合、試合の途中で7人未満になれば、不戦敗として終了する。なお、9名のチームが、試合途中で8名になったケースも正式試合として継続できる。ただし、8名になったチームを途中から9名に戻すことは不可とする(7名を8名に戻すことも同様)。(この後、職員を加えてのオープン参加に切り替えることも認められない)

28 「21」のケースが発生した場合の特別延長戦は、「4」に従う。9人でないチームも無条件に満塁として、継続打順とする。また、特別延長戦でも決着がつかない場合、抽選はどのチームも9名での抽選とする。7人チームの場合、大人を2人抽選に加え9名とする。8人チームの場合は、大人を1人抽選に加え、9名とする。先行が先にくじを引き、打順に従う。

29 同地区に、7名未満のチームが複数生じた時、7名未満のチーム同士の2チームによる合同チームを結成し、7名以上のチームが編成できたとき、正式参加としての出場を認める。(また、たとえば20名の部員がいて、15名で自チームを作り、それ以外の5名と他の人数がそろわない施設の6名チームを合同にした場合等は、正式参加とは認めない)

30 合同チームについて、少なくとも帽子及び、打撃ヘルメットは統一する。名称や監督・コーチなどは、大会事務局と協議し、決定する。

31 合同チームが全日本少年野球大会に参加し、優勝した場合、翌年の前年度優勝チームとしての参加は、その地区に次回の参加権を与え、地区内で協議し、決定するものとする。

(合同チームの規定は変えないので、人数の不足がない場合は次年度合同チームを組むことができないことも生ずる。)

32 その他

○「21」のケースにおいてもランナーコーチは出すようにする。(公式通り)

監督・主将会議次第

日時：平成29年8月28日（月）
午後3時から午後3時50分
会場：伏尾温泉 不死王閣(307)

- 1 開会
- 2 あいさつ 大会実行委員長 大阪市こども青少年局子育て支援部長
- 3 競技・審判上の注意 大会審判長（大阪市中学校体育連盟）
- 4 選手登録について 大会事務局
- 5 大会運営について 大会事務局
- 6 組合せ予備抽選 大会事務局
- 7 閉会

組合せ抽選会次第

日時：平成29年8月28日（月）
午後4時から午後4時50分
会場：伏尾温泉 不死王閣
（グリーンホール）

1 開会

2 主催者あいさつ

厚生労働大臣
大阪市長
全国児童自立支援施設協議会会長

3 主催者・協賛等紹介

4 優勝杯等返還

全国児童自立支援施設協議会
優勝杯返還及びレプリカ授与

全国児童自立支援施設協議会会長

朝日新聞厚生文化事業団・
NHK厚生文化事業団優勝杯返還

全国児童自立支援施設協議会
転退職者交友会会長

日刊スポーツ新聞社
優勝杯返還及びレプリカ授与

大会実行委員長

東京六大学野球連盟優勝杯返還

大会実行委員長

5 全日本少年野球連盟理事長賞授与

全日本少年野球連盟理事長

6 組合せ抽選

7 閉会

開会式次第

日時：平成29年8月29日（火）
午前9時から午前9時45分
会場：万博記念公園野球場

1 選手入場

2 開会宣言

大阪市こども青少年局
子育て支援部こども家庭課長

3 国旗・大阪市旗・全日本少年野球大会旗掲揚

4 優勝旗及び優勝杯返還

優勝旗返還

全日本少年野球連盟理事長

厚生労働大臣優勝杯返還及びレプリカ贈呈

厚生労働大臣

5 主催者あいさつ

厚生労働大臣

大阪市長

6 来賓祝辞

大阪市議会議長

7 大会審判長注意

大阪府中学校体育連盟

8 選手宣誓

大阪市立
阿武山学園野球部主将

9 選手退場

※雨天時は、選手入場は割愛し、最初から整列する。

閉会式次第

日時：平成29年8月30日（水）
午後2時から午後2時30分
会場：万博記念公園野球場

- 1 選手・役員整列
- 2 成績発表
大会実行委員会事務局長
- 3 表彰
優勝チーム
優勝旗授与
賞状・優勝杯授与
市賞状・優勝楯授与
全国児童自立支援施設協議会優勝杯授与
朝日新聞厚生文化事業団・
NHK厚生文化事業団優勝杯授与
日刊スポーツ新聞社優勝杯授与
東京六大学野球連盟優勝杯授与
全日本少年野球連盟理事長
厚生労働大臣
大阪市長
全国児童自立支援施設協議会会長
大会実行委員長
大会実行委員長
大会実行委員長
- 準優勝チーム
賞状授与
市賞状・準優勝楯授与
厚生労働大臣
大阪市長
- 4 メダル授与
優勝チーム
準優勝チーム
全日本少年野球連盟理事長
全国児童自立支援施設協議会会長
- 5 大会講評
全日本少年野球連盟理事長
- 6 国旗・市旗・全日本少年野球大会旗降納
- 7 全日本少年野球大会旗引継
大阪市立阿武山学園園長
横浜市向陽学園
- 8 閉会宣言
大阪市こども青少年局子育て支援部
こども家庭課長代理

第68回全日本少年野球大会出場チーム一覧

ブロック	チーム名	住 所	連絡先
東北 ・ 北海道	秋田県千秋学園	〒010-1602	TEL 018-862-2614
		秋田県秋田市新屋下川原町1番2号	FAX 018-863-2416
	宮城県さわらび学園	〒982-0215	TEL 022-245-0333
		宮城県仙台市太白区旗立2-4-1	FAX 022-245-0515
関東	横浜市向陽学園	〒240-0053	TEL 045-381-3016
		神奈川県横浜市保土ヶ谷区新井町580	FAX 045-381-3016
	神奈川県立おおいそ学園	〒259-0102	TEL 0463-71-0590
		神奈川県中郡大磯町生沢527	FAX 0463-72-6092
北越	石川県立児童生活指導センター	〒920-0266	TEL 076-286-3235
		石川県河北郡内灘町字大根布と543	FAX 076-286-3432
東海	名古屋市玉野川学園	〒463-0003	TEL 052-736-2369
		愛知県名古屋市守山区大字下志段味字長廻間2280-12	FAX 052-736-1636
	静岡県立三方原学園	〒431-3123	TEL 053-472-2281
		静岡県浜松市東区有玉西町816	FAX 053-474-4025
近畿	(前回優勝) 大阪府立修徳学院	〒582-0015	TEL 072-978-6083
		大阪府柏原市高井田809-1	FAX 072-976-2103
	奈良県立精華学院	〒630-8411	TEL 0742-62-9207
		奈良県奈良市高樋町172	FAX 0742-62-3572
	神戸市立若葉学園	〒655-0001	TEL 078-792-1133
		兵庫県神戸市垂水区多聞町字小束山868-49	FAX 078-795-4300
	(開催都市) 大阪市立阿武山学園	〒569-1041	TEL 072-696-0331
		大阪府高槻市大字奈佐原956	FAX 072-696-0332
中国	岡山県立成徳学校	〒703-8282	TEL 086-272-1268
		岡山県岡山市中区平井2丁目2572	FAX 086-272-0205
四国	愛媛県立えひめ学園	〒792-0856	TEL 0897-41-7601
		愛媛県新居浜市船木甲2971-1	FAX 0897-41-7602
九州	福岡県立福岡学園	〒811-1241	TEL 092-952-2621
		福岡県筑紫郡那珂川町大字後野279の2	FAX 092-952-2622
	大分県立二豊学園	〒879-7502	TEL 097-596-1144
		大分県大分市大字端登5番地	FAX 097-596-1145

優勝チーム一覧

回数	開催年	優勝チーム	開催地	回数	開催年	優勝チーム	開催地
1	昭和25年	武蔵野学院(国立)	大阪府	35	昭和59年	明石学園(兵庫県)	滋賀県
2	昭和26年	萩山実務学校(東京都)	東京都	36	昭和60年	杜陵学園(岩手県)	宮城県
3	昭和27年	明石学園(兵庫県)	愛知県	37	昭和61年	萩山実務学校(東京都)	長野県
4	昭和28年	誠明学園(東京都)	神奈川県	38	昭和62年	千秋学園(秋田県)	岡山県
5	昭和29年	萩山実務学校(東京都)	京都府	39	昭和63年	希望ヶ丘学園(高知県)	大阪府
6	昭和30年	萩山実務学校(東京都)	静岡県	40	平成元年	阿武山学園(大阪市)	東京都
7	昭和31年	淇陽学校(京都府)	埼玉県	41	平成2年	育成学校(山口県)	高知県
8	昭和32年	生実学校(千葉県)	岐阜県	42	平成3年	修徳学院(大阪府)	神奈川県
9	昭和33年	国府実修学校(神奈川県)	千葉県	43	平成4年	三方原学園(静岡県)	福岡県
10	昭和34年	中止	滋賀県	44	平成5年	萩山実務学校(東京都)	秋田県
11	昭和35年	明石学園(兵庫県)	神奈川県	45	平成6年	成徳学校(岡山県)	山梨県
12	昭和36年	二豊学園(大分県)	兵庫県	46	平成7年	成徳学校(岡山県)	沖縄県
13	昭和37年	国府実修学校(神奈川県)	東京都	47	平成8年	淡海学園(滋賀県)	和歌山県
14	昭和38年	明石学園(兵庫県)	三重県	48	平成9年	児童生活指導センター(石川県)	福井県
15	昭和39年	淇陽学校(京都府)	大阪府	49	平成10年	明石学園(兵庫県)	北海道
16	昭和40年	淇陽学校(京都府)	茨城県	50	平成11年	修徳学院(大阪府)	兵庫県
17	昭和41年	開成学園(長崎県)	神戸市	51	平成12年	修徳学院(大阪府)	埼玉県
18	昭和42年	明石学園(兵庫県)	富山県	52	平成13年	成徳学校(岡山県)	熊本県
19	昭和43年	淇陽学校(京都府)	静岡県	53	平成14年	明石学園(兵庫県)	愛媛県
20	昭和44年	三方原学園(静岡県)	埼玉県	54	平成15年	明石学園(兵庫県)	石川県
21	昭和45年	育成学校(山口県)	京都府	55	平成16年	修徳学院(大阪府)	山形県
22	昭和46年	修徳学院(大阪府)	名古屋市	56	平成17年	武蔵野学院(国立)	神戸市
23	昭和47年	三方原学園(静岡県)	東京都	57	平成18年	阿武山学園(大阪市)	茨城県
24	昭和48年	三方原学園(静岡県)	兵庫県	58	平成19年	修徳学院(大阪府)	長崎県
25	昭和49年	広島学園(広島県)	愛知県	59	平成20年	福岡学園(福岡県)	山口県
26	昭和50年	日吉学院(北海道)	栃木県	60	平成21年	阿武山学園(大阪市)	新潟県
27	昭和51年	明石学園(兵庫県)	大阪府	61	平成22年	武蔵野学院(国立)	宮城県
28	昭和52年	育成学校(山口県)	山口県	62	平成23年	阿武山学園(大阪市)	京都府
29	昭和53年	武蔵野学院(国立)	群馬県	63	平成24年	修徳学院(大阪府)	栃木県
30	昭和54年	育成学校(山口県)	横浜市	64	平成25年	成徳学校(岡山県)	福岡県
31	昭和55年	育成学校(山口県)	福島県	65	平成26年	二豊学園(大分県)	徳島県
32	昭和56年	富山学園(富山県)	奈良県	66	平成27年	千秋学園(秋田県)	岐阜県
33	昭和57年	八雲学園(島根県)	千葉県	67	平成28年	修徳学院(大阪府)	青森県
34	昭和58年	福岡学園(福岡県)	広島県				

第 6 8 回全日本少年野球大会得点表

【一回戦】

<万博記念公園野球場 ①>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<万博記念公園野球場 ②>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<萩谷運動公園野球場 ①>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<萩谷運動公園野球場 ②>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<豊中ローズ球場 ①>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<豊中ローズ球場 ②>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<関西電力総合運動公園野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

【二回戦】

<万博記念公園野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<萩谷運動野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<豊中ローズ球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<関西電力総合運動公園野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

【準決勝】

<万博記念公園野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

<豊中ローズ球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

【決勝】

<万博記念公園野球場>

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

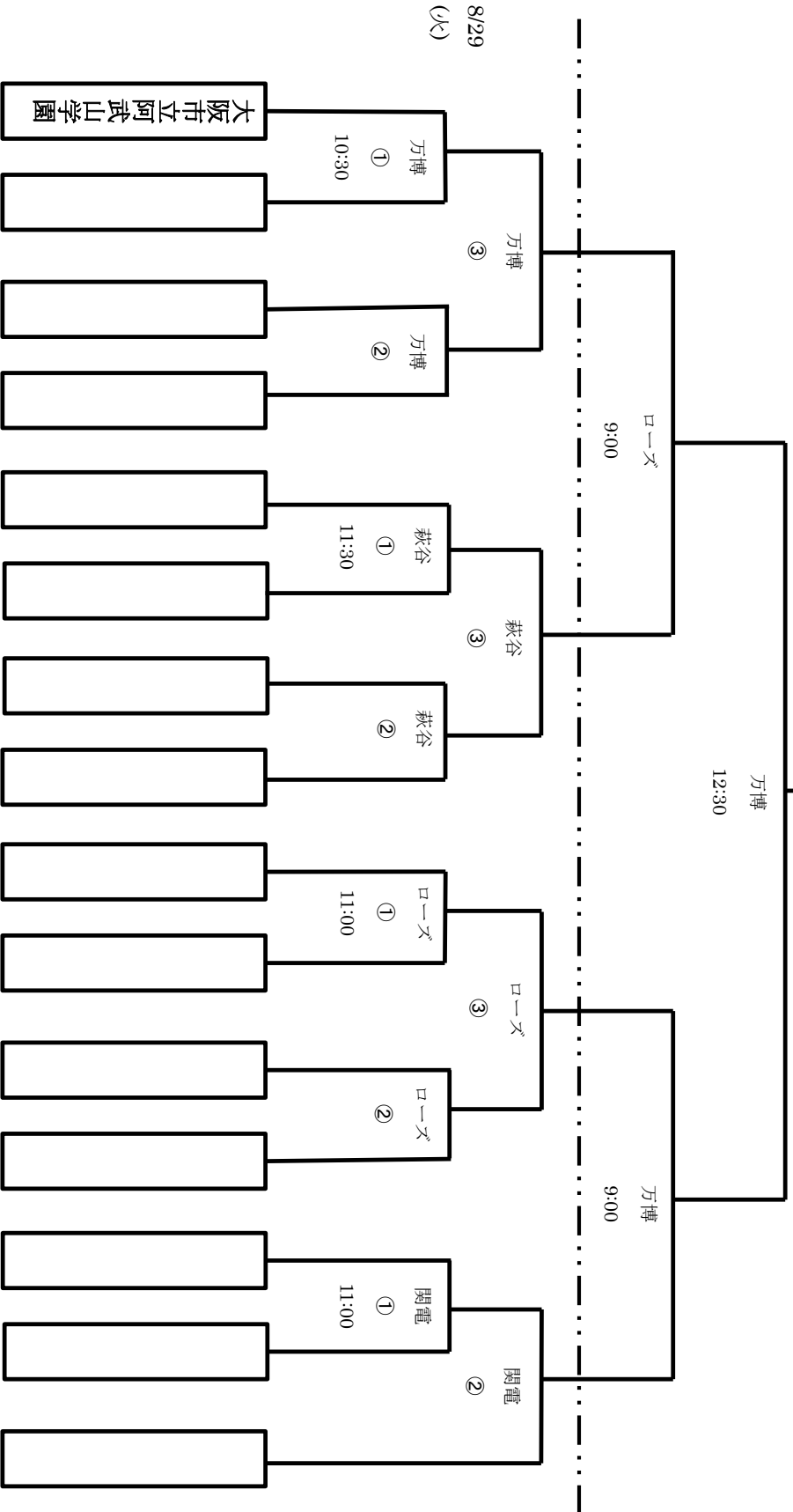
第68回 全日本少年野球大会 トーナメント表

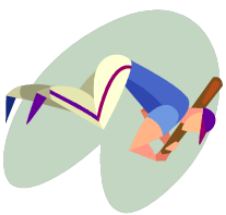
優勝



8/30
(水)

万博：万博記念公園野球場
 ローズ：豊中ローズ球場
 萩谷：萩谷運動公園野球場
 関電：関西電力総合運動公園野球場





会場案内

★伏尾温泉 不死王閣

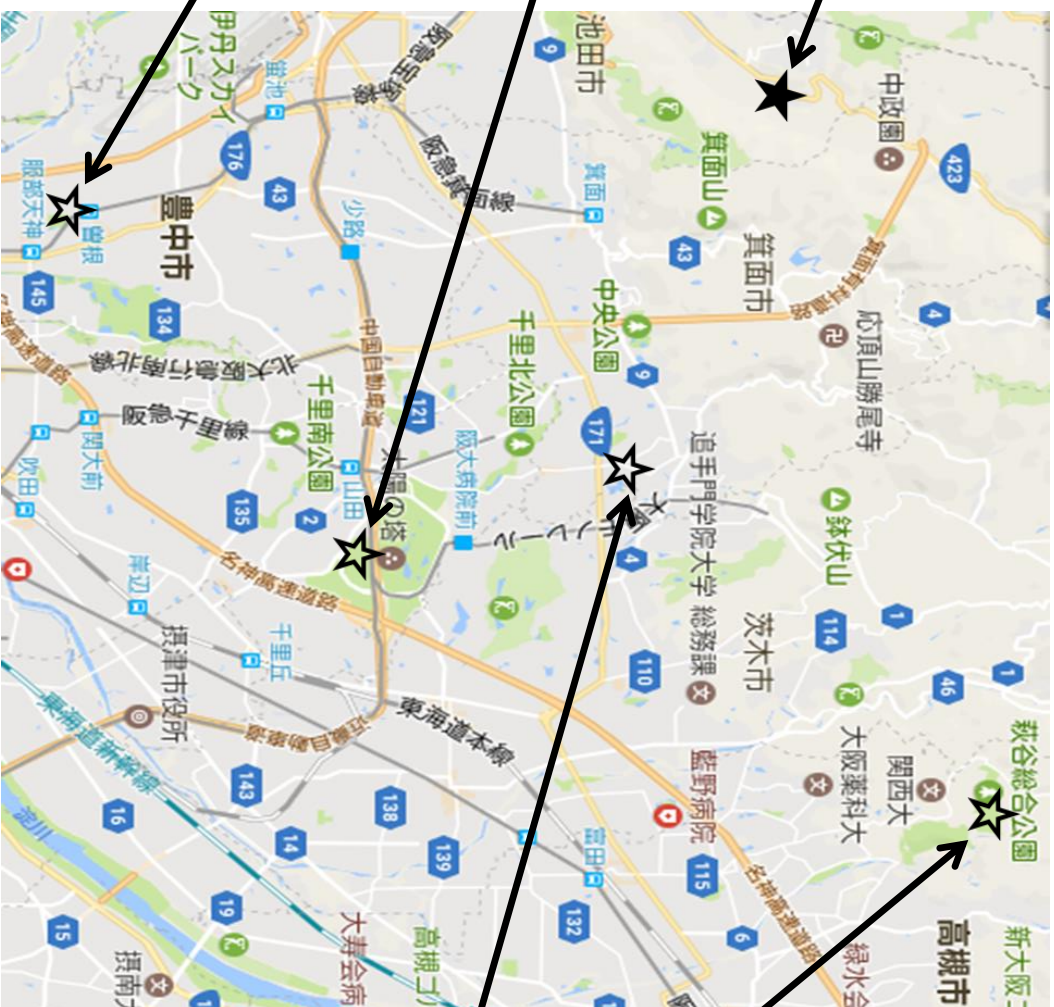
池田市伏尾町128-1

★万博記念公園 野球場

吹田市千里万博公園1-1
車で約28分 26km

☆豊中ローム球場

豊根南町1-4-2
車で約25分 15.5km



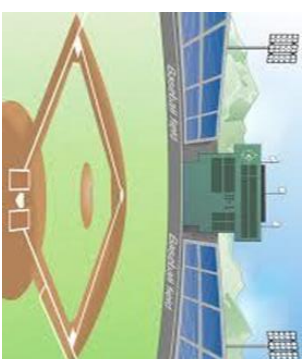
例：☆会場
住所
宿泊所からの距離

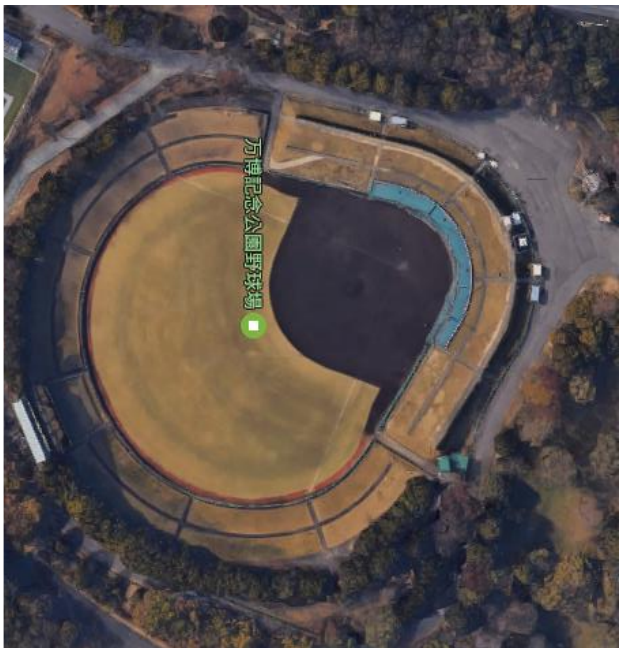
☆荻谷総合公園 野球場

高槻市荻谷111-1
車で約58分 25.3km

☆関西電力総合 運動公園野球場

箕面市栗生新家4-4-1
車で約25分 15.5km





万博記念公園野球場



豊中ロース球場



関西電力総合
運動公園野球場



荻谷運動公園野球場

あつつい夏が
好きやねん！！



The 68th
Boy National Baseball Tournament
In Osaka